

決算説明会

2019年5月28日



OSJBホールディングス株式会社

目次

1. 2019年3月期 決算概要
2. 中期経営計画進捗状況



2019年3月期 決算概要

連結業績サマリー

	2019年3月期(実績)	前年同期比	2020年3月期(予想)	前年同期比
売上高	50,352百万円	1.6% 増 ▲	55,000百万円	9.2% 増 ▲
営業利益	4,118百万円	28.2% 増 ▲	3,500百万円	15.0% 減 ▼
経常利益	4,181百万円	26.0% 増 ▲	3,500百万円	16.3% 減 ▼
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,226百万円	51.5% 増 ▲	6,300百万円	95.3% 増 ▲
1株当たり当期純利益	26.99円	—	52.70円	—
1株当たり配当金	8.00円	—	8.00円	—

建設事業



大狩部橋上部工事

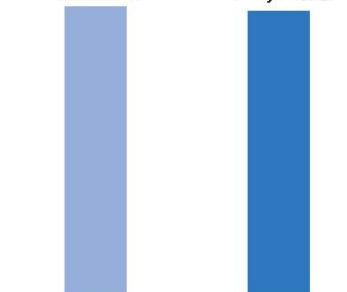
売上高 **44,703**百万円

当セグメントの売上高は447億3百万円(前年同期比1.3%減)、セグメント利益(営業利益)は42億5千3百万円(前年同期比13.7%増)となりました。

営業利益 **4,253**百万円

売上高 (単位:百万円)

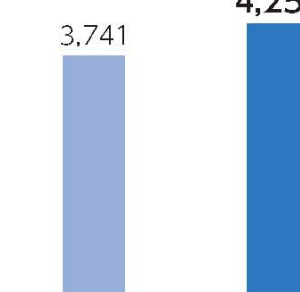
45,284 44,703



2018年3月期 2019年3月期

営業利益 (単位:百万円)

3,741 4,253



2018年3月期 2019年3月期

主な売上案件

工事名	工事概要
新東名高速道路 柳島高架橋工事	新東名 秦野-御殿場JCT間32kmの内、総延長674mを上下部施工
中央自動車道 辰野T N~伊北I C間改良工事	中央自動車道の天竜川橋・平出高架橋の床版取替え、辰野トンネルの補修・補強
沖縄自動車道 億首川橋(上り線)他1橋床版取替工事	沖縄自動車道の億首川橋(上り線)・明治山第一橋(下り線)の床版取替え
北陸新幹線 細坪橋りょう他	J R西日本大聖寺駅の南側に、北陸新幹線(延長1303m)の上下部施工
桂川右岸流域下水道洛西浄化センター建設工事(呑龍ポンプ場)	浄化センター内に取り込んだ雨水を桂川へ放流するポンプ場をニューマチックケーソンで構築
日高自動車道 新冠町大狩部橋上部工事	北海道日高地方にて計画の日高自動車道 橋長261mの上部工を張出し架設工法にて施工

鋼構造物事業



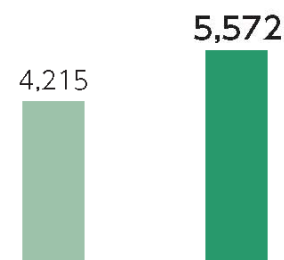
福岡208号大川高架橋上部工(P34-P39)工事

売上高 **5,572**百万円

当セグメントの売上高は55億7千2百万円(前年同期比32.2%増)、セグメント利益(営業利益)は7千6百万円(前年同期はセグメント損失(営業損失)2億8千4百万円)となりました。

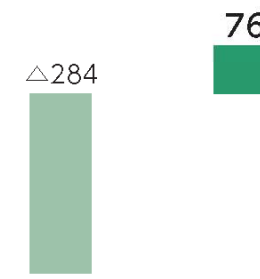
営業利益 **76**百万円

売上高 (単位:百万円)



2018年3月期 2019年3月期

営業利益 (単位:百万円)



2018年3月期 2019年3月期

主な売上案件

工事名	工事概要
大木高架橋	中部地方整備局 鋼7径間連続少数钣桁橋の製作架設工事
メップ川橋応急復旧工事	道央自動車道 鋼3径間連続トラス橋、鋼3径間連続钣桁橋の調査、設計、応急復旧などの補修工事
億首川橋(上り線)他1橋床版取替	沖縄自動車道 支承取替、腐食部材取替、塗装塗替など橋梁の補修工事全般

その他



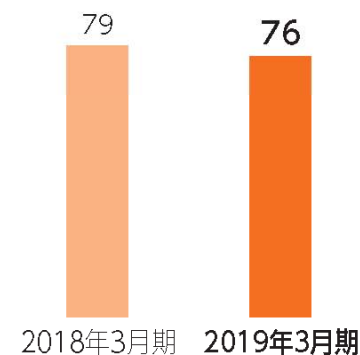
西脇太陽光発電所

売上高 **76**百万円

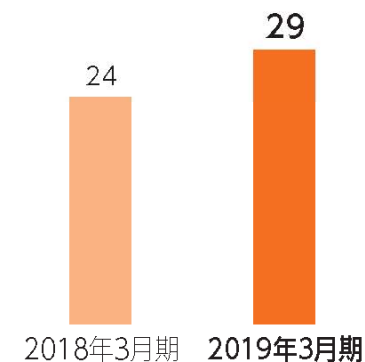
太陽光発電による売電事業により、売上高は7千6百万円(前年同期比3.3%減)、セグメント利益(営業利益)は2千9百万円(前年同期比19.0%増)となりました。

営業利益 **29**百万円

売上高 (単位:百万円)

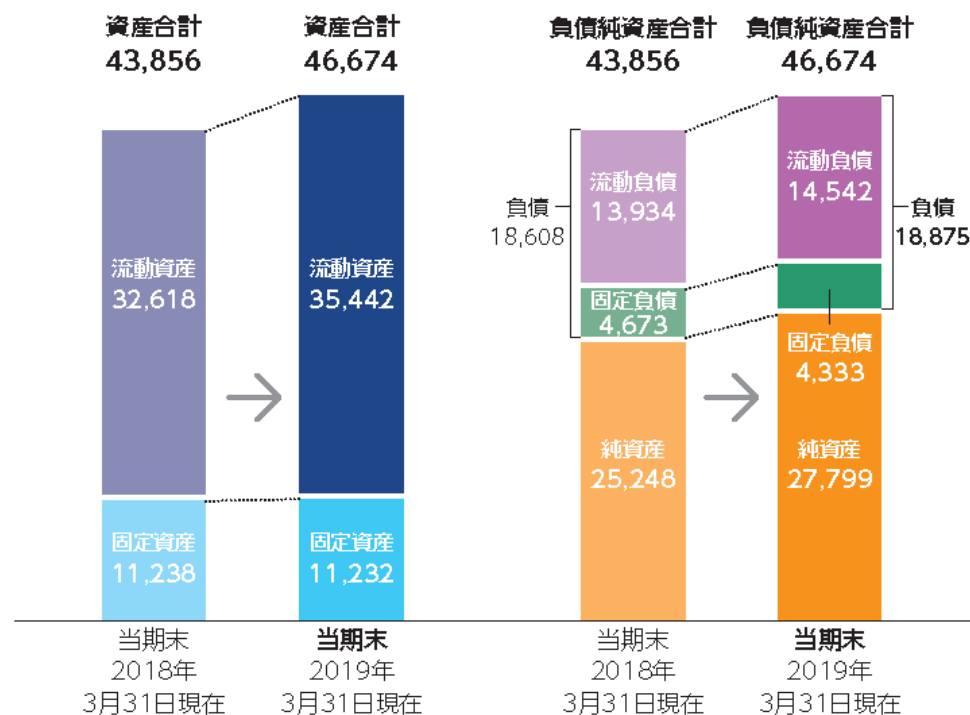


営業利益 (単位:百万円)



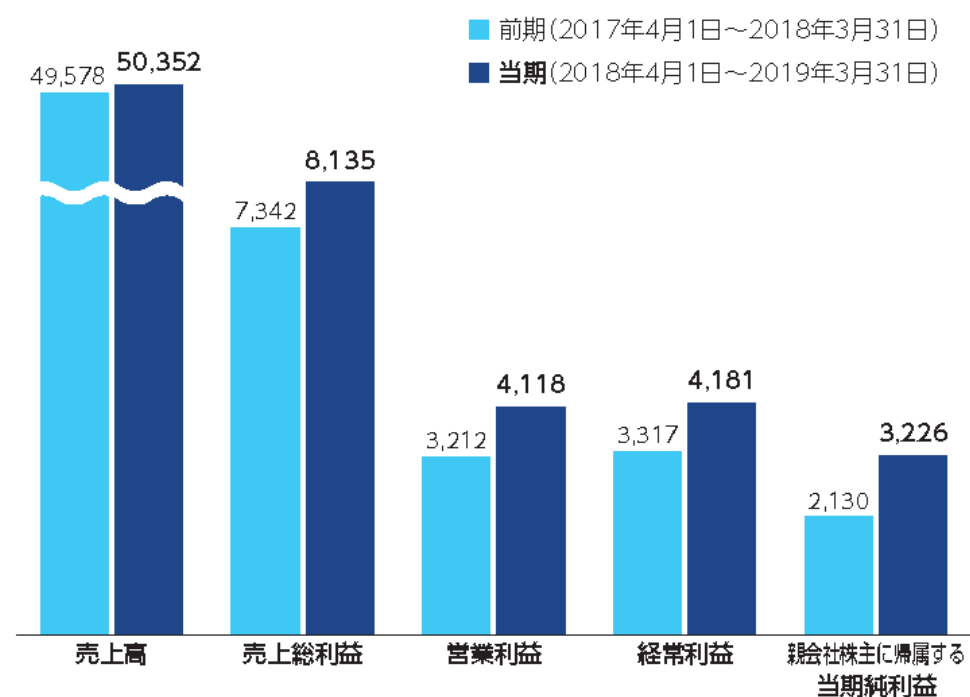
連結貸借対照表の概要

(単位:百万円)



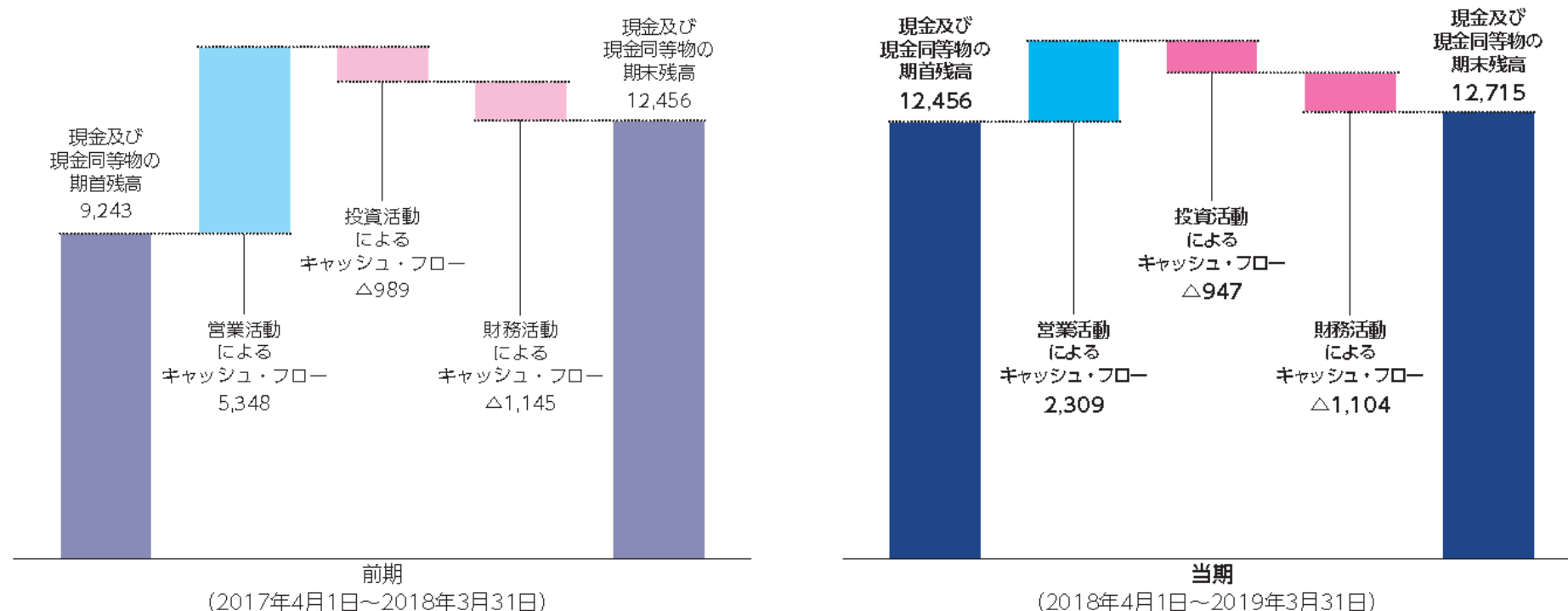
連結損益計算書の概要

(単位:百万円)



連結キャッシュ・フロー計算書の概要

(単位:百万円)



POINT 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動による資金の増加は23億9百万円（前年同期比56.8%減）となりました。これは主に法人税等の支払額11億7千万円、売上債権の増額22億5千9百万円、仕入債務の増額9億5千6百万円、税金等調整前当期純利益43億2百万円などによるものであります。

POINT 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動による資金の減少は9億4千7百万円（前年同期比4.3%減）となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出10億5千1百万円、投資有価証券の取得による支出3億3千万円などによるものであります。

POINT 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動による資金の減少は11億4百万円（前年同期比3.6%減）となりました。これは主に配当金の支払額7億1千7百万円、長期借入金の返済による支出2億8千5百万円などによるものであります。

中期経営計画の進捗

2017 → 2018 → 2019
実績 実績 最終年度

中期経営計画(2017-2019)～『らしさ』で築き上げる 安定と成長～

基本方針

- 独自技術の強化と適用範囲の拡大を通じ、橋梁の上下部工・ニューマチックケーソン・プレストレストコンクリート建築・維持補修工を主軸として、長期安定収益の確保を図る。
- 事業の成長・拡大に向けた新たな事業・投資戦略等に対する適切なリスクマネジメントや内部統制の強化等を実施し、攻めと守りのバランスのとれたガバナンスを通じ持続的企業価値の向上を図る。

経営指標目標

2020/3期

売上高

550億円

経常利益

35億円

事業別戦略

既存事業の収益力強化

建設事業の4つのセグメントを強化

- **コンクリート製新設橋梁**
 - ➔ 総合評価力の強化、シェアの確保
 - 省力化工法高耐久技術の開発
- **ニューマチックケーソン**
 - ➔ 大深度・大規模構造物対応
 - 安全性向上、掘削技術の開発
 - 無人化・省力化技術の開発
- **補修・補強**
 - ➔ 高速道路床版取替、桁架替対応
 - ➔ 橋脚・基礎の補修補強対応
 - 実績積上げ、急速施工技術開発
- **PC(プレストレストコンクリート)建築**
 - ➔ 提案力、設計力の強化
 - BIMの活用
 - プレキャスト工法の競争力向上

大型プロジェクト工事の積極受注

- **建設事業**
 - ➔ 北陸新幹線延伸
 - 橋梁、橋脚基礎、軌道スラブ等
 - ➔ 中央新幹線
 - ニューマチックケーソン立坑工事等
 - ➔ 高速道路大規模更新
 - 橋梁上下部工事、ガイドウェイ
 - ➔ 調整池・ポンプ場更新
 - 床版取替・桁架替工事、橋梁補修工事等
 - ➔ 東京五輪関連施設建設
 - ニューマチックケーソン工法によるポンプ場等築造
 - 観覧スタンド段床版等のプレキャスト工事

鋼構造物事業の再編

- **新設鋼製橋梁建設事業**
 - ➔ 工場を集約しコストを圧縮
 - 日立造船株式会社との共同工場による生産体制構築への取り組み
- **インフラ保全事業**
 - ➔ 補修・補強部門を強化
 - 高速道路床版取替対応
 - 疲労損傷補修補強対応
 - 耐震補強対応

エンジニアリング化の推進
(製造業から建設業へのシフト)

新規・新領域事業への進出

新たな事業分野を開拓

- **建設事業**
 - ➔ 港湾関連事業への進出
 - ニューマチックケーソン岸壁適用、高耐久PC栈橋等
 - ➔ 海外事業への進出
 - モノレール軌道桁、軌道スラブの製作
 - ニューマチックケーソンの施工
 - ➔ アライアンス等の検討
 - M&A、異業種業務提携等
- **鋼構造物事業**
 - ➔ 鋼製橋梁周辺事業への進出
 - IH式塗膜剥離装置による保全事業の展開
 - 恒久足場事業の展開
 - 高耐食鋼検査路事業の展開

研究開発の強化と戦略的投資

新たな技術・素材・工法を開発

- ➔ 独自技術の開発
 - 橋梁等の新たな更新、補修・補強技術開発および新素材や構造物への適用工法の開発
- ➔ 異業種企業との連携
 - 事業分野を超えた多様な企業との連携・協働を通じた、技術や工法の融合による新商品の開発

戦略的投資

- ➔ 安定と成長の布石
 - 生産性向上に資する設備・研究開発投資
 - コンクリート工場の設備更新
 - 戦略的な出資や資本提携の模索

経営基盤進化

経営課題への積極的な取り組み

人材マネジメント・働き方改革

- 優秀な人材の確保と育成(協力的会社含む)
- 女性・外国人・高齢者等の活躍を支援するダイバーシティ化の推進
- 休日の確保、長時間労働等への取り組み

業務の効率化

- グループ内システム統一化により、子会社の業務プロセスの標準化・効率化を図る
- 数年後、管理業務を持株会社へ集約

協力的会社との協働

- 作業員用宿舍の提供
- 協力的会社を通じ、採用・社員研修・資格取得に対する支援

健全な財務基盤の維持

- 金融機関のセーフティネットを確保
- 確実な代金回収

コーポレートガバナンスの強化

- コーポレートガバナンスコードへの対応推進
- 役職員に対するコンプライアンス教育の充実
- 役職員に対する品質・安全管理、リスクマネジメント、BCPの充実

株主還元方針

安定した利益配当を継続実施

配当金

- 財務の健全性および将来の戦略投資に資する内部留保の充実等を総合的に勘案したうえで、安定した利益配当を継続して実施

自社株買い

- 一定水準の利益配当を確保したうえで配当性向、株価動向等を勘案し、機動的に自社株買いを実施

総還元性向

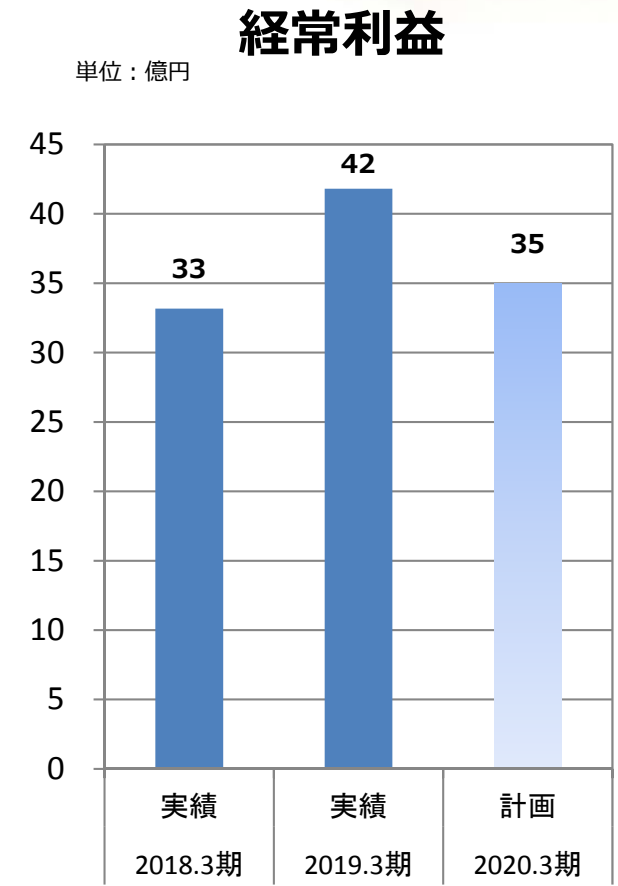
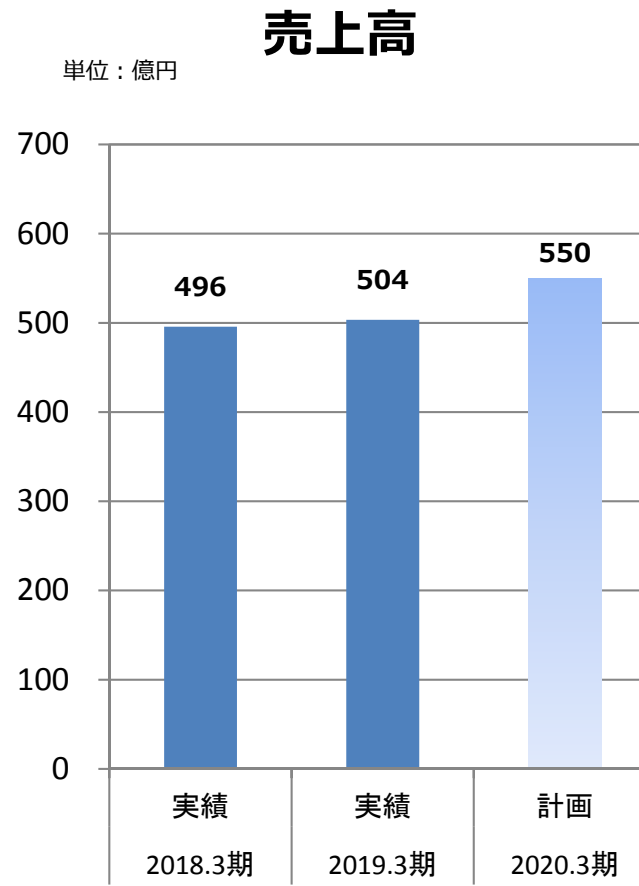
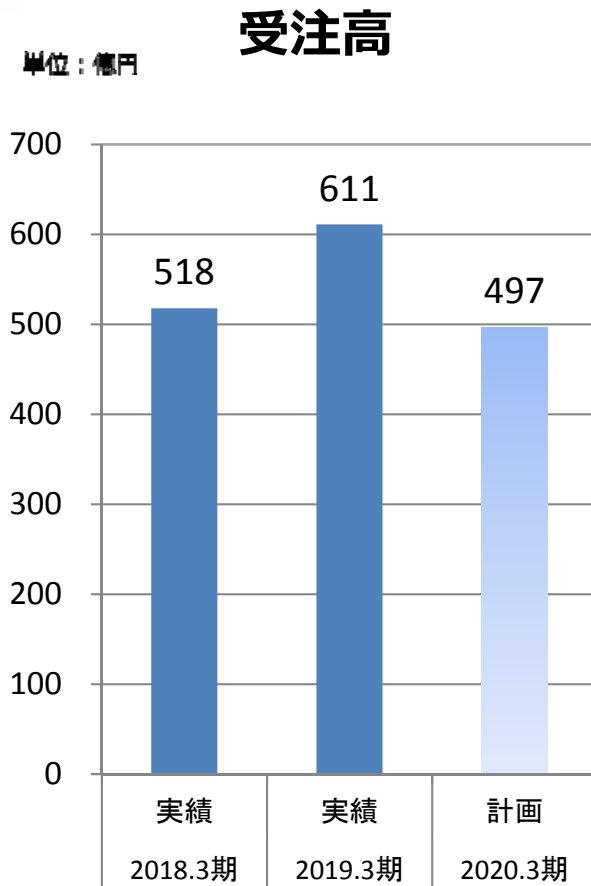
- 配当金と自社株買いを合わせた総還元性向は30%以上を目標

連結業績推移

単位（百万円）

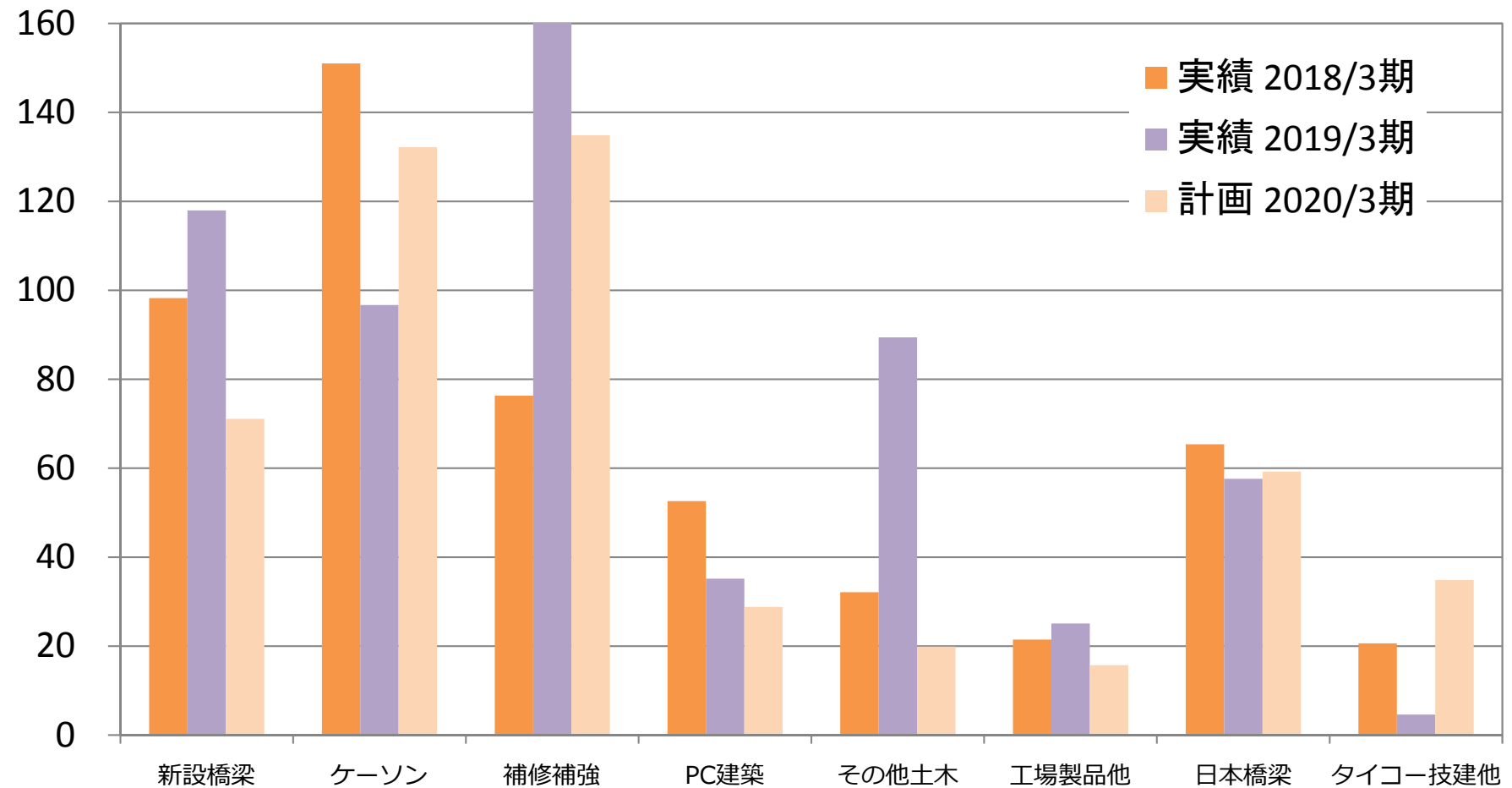
	2018.3期		2019.3期		2020.3期	
	実績	前年比	実績	前年比	計画	前年比
受注高	51,786	△19.3%	61,112	+18.0%	(49,671)	△18.8%
売上高	49,578	△3.4%	50,352	+1.6%	55,000	+9.2%
経常利益	3,317	+9.0%	4,181	+26.0%	3,500	△15.0%
経常利益率	6.7%	+0.8%	8.3%	+1.6%	6.3%	△2.0%
親会社株主に帰属 する当期純利益	2,130	△20.0%	3,226	+51.5%	6,300	+95.3%
ROE	8.7%	△2.9%	12.2%	+3.5%	10%程度	-
配当性向	33.7%	+6.7%	29.6%	△4.1%	30%程度	-
総還元性向	35.6%	△0.6%	29.6%	△6.0%	40%程度	-

連結業績推移



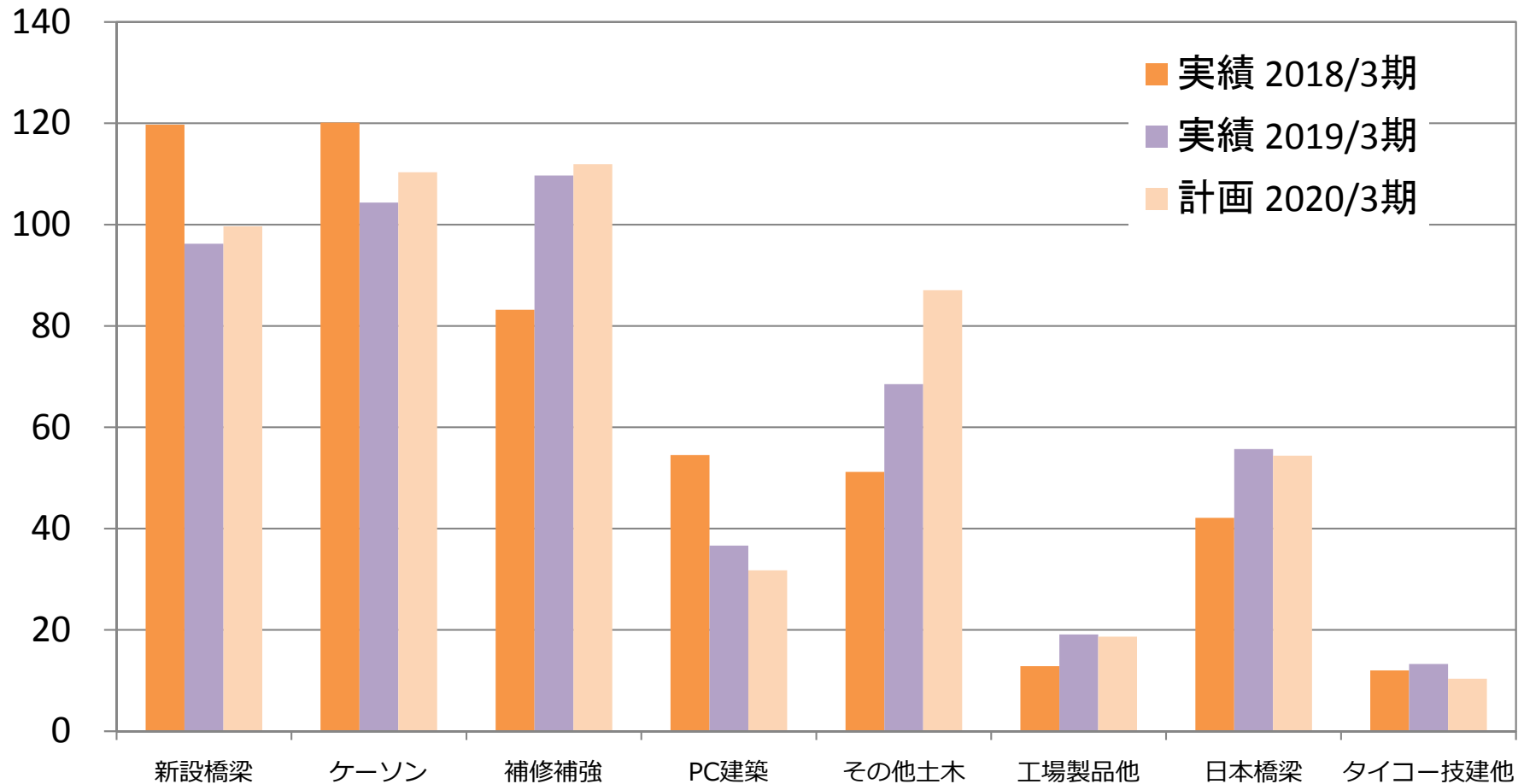
受注高（セグメント別）

単位：億円



売上高（セグメント別）

単位：億円



既存事業の収益力強化

建設事業の4つのセグメントを強化

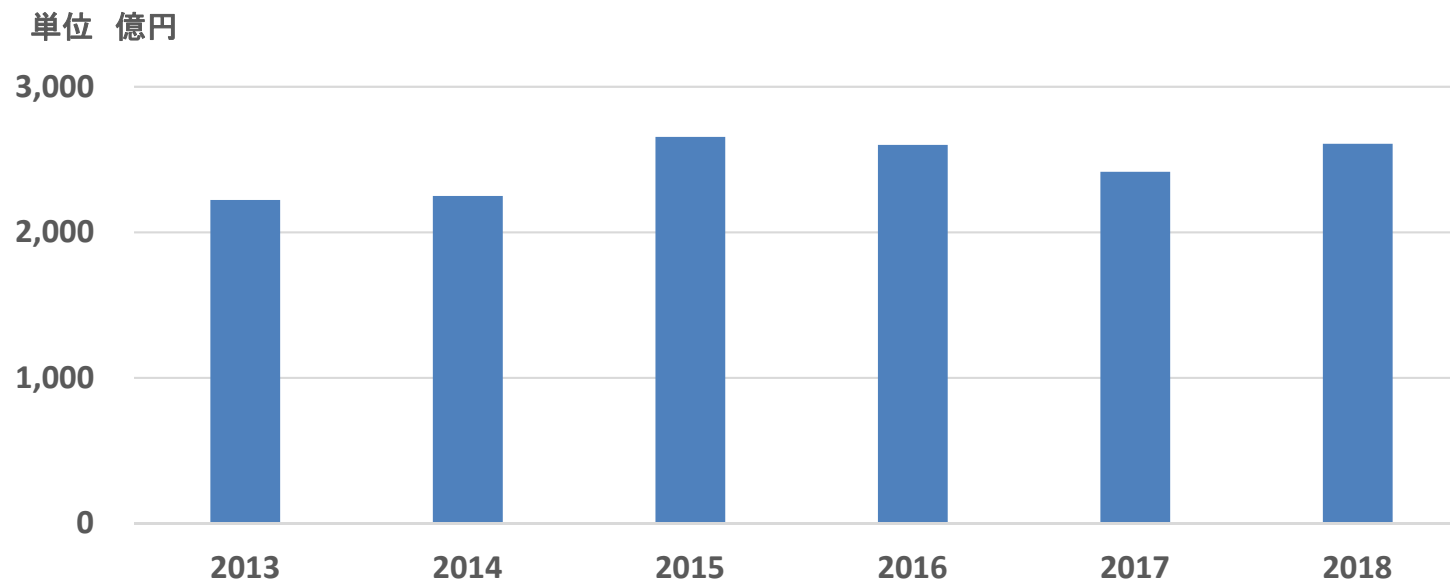
■ コンクリート製新設橋梁

➡ 総合評価力の強化、シェアの確保

- ・ 省力化工法高耐久技術の開発

SLJスラブ工法、SCBR工法など当グループで開発した独自技術の採用拡大を図り、生産性、耐久性の向上を実現するとともに、一定の事業量を確保するように努めています。

新設橋梁 PC建協会員受注額の推移



* プラスチスト・コンクリート建設業協会「受注額の推移」から引用

主な受注案件

工事名	工事概要
長峰高架橋他3橋	西日本高速道路(株)発注 大規模更新工事にて新設PC上部工4橋、耐震補強工6橋を施工
北陸新幹線、南条橋りょう(PCけた)	JRTT(※)発注 福井県内にてPC桁橋11連 PC箱けた1連 390m分の施工
玉川大橋	復興道路 岩手県九戸郡にて4径間連続PC箱桁橋235mの施工
木場2西PC床版敷設工事	中部地方整備局発注 名古屋第二環状道路のプレキャストPC床版を施工
大石田村山IC橋外上部工	東北地方整備局発注 東北中央自動車道の山形県内、村山北IC橋と大石田村山IC橋の2橋を施工

既存事業の収益力強化

建設事業の4つのセグメントを強化

■ ニューマチックケーソン

▶ 大深度・大規模構造物対応

・ 掘削技術の更なる高度化

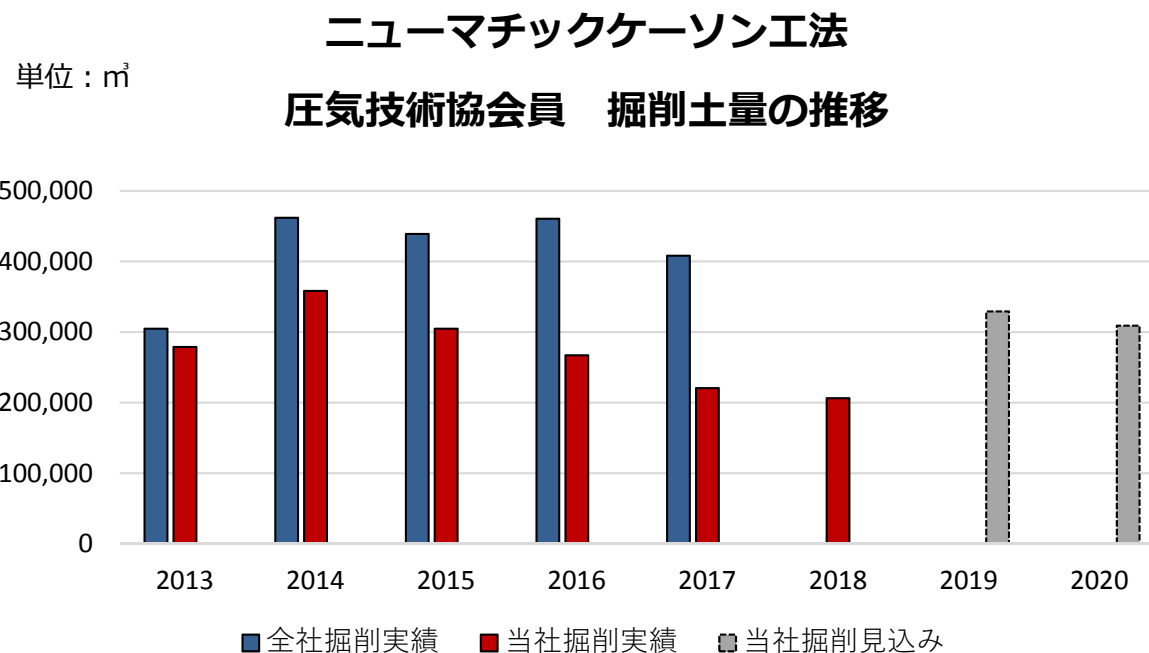
- ①大深度施工、大規模構造物施工増加における施工技術力向上を常に探求し、掘削能力の向上、設備の機能強化等を図り高度化に努めています。
- ②蓄積された現場の計測データを収集・分析し、AI技術を活用した沈下精度の向上、さらに掘削作業の自動化による効率化を希求しています。

・ 無人化・省力化技術の開発

高気圧下での、ロボットによる作業、掘削機の自動運転の開発を千葉工業大学との共同研究として進めています。

この技術は、大深度ケーソン工事等への適用も視野に入れていきます。

『協調作業する掘削ロボットを用いた i-Construction システムの開発』が国の助成制度に採択されました。



* 圧気技術協会「ニューマチックケーソン年度実績表」より引用
(2019年、2020年は当社による見込み土量)

主な受注案件

工 事 名	工 事 概 要
片掛橋 (P2・P3) 下部工事	北陸地方整備局発注 冬期交通障害の回避等を目的したバイパス事業のうち神通川神一ダム下流に架かる橋脚を築造
王子給水所立坑ケーソン工事	東京都北区東部地域への給水を目的とし、給水所からの送配水管(シールド配管)用の立坑を築造
四日市シールド発進立坑ケーソン工事	J R 四日市駅と近鉄四日市駅南部地域の浸水対策シールド工事における発進立坑を築造
広島市雨水幹線シールド工事(八木・緑井地区)	平成26年8月に発生した広島市の集中豪雨に対するシールド幹線工事における立坑を築造
熊野川大橋P1,P2,P3ケーソン工事	近畿地方整備局発注 輸送短縮、緊急医療活動、渋滞緩和を目的とした熊野川に架かる橋のうち橋脚3基を築造

既存事業の収益力強化

建設事業の4つのセグメントを強化

補修・補強

▶ 高速道路床版取替、桁架替対応

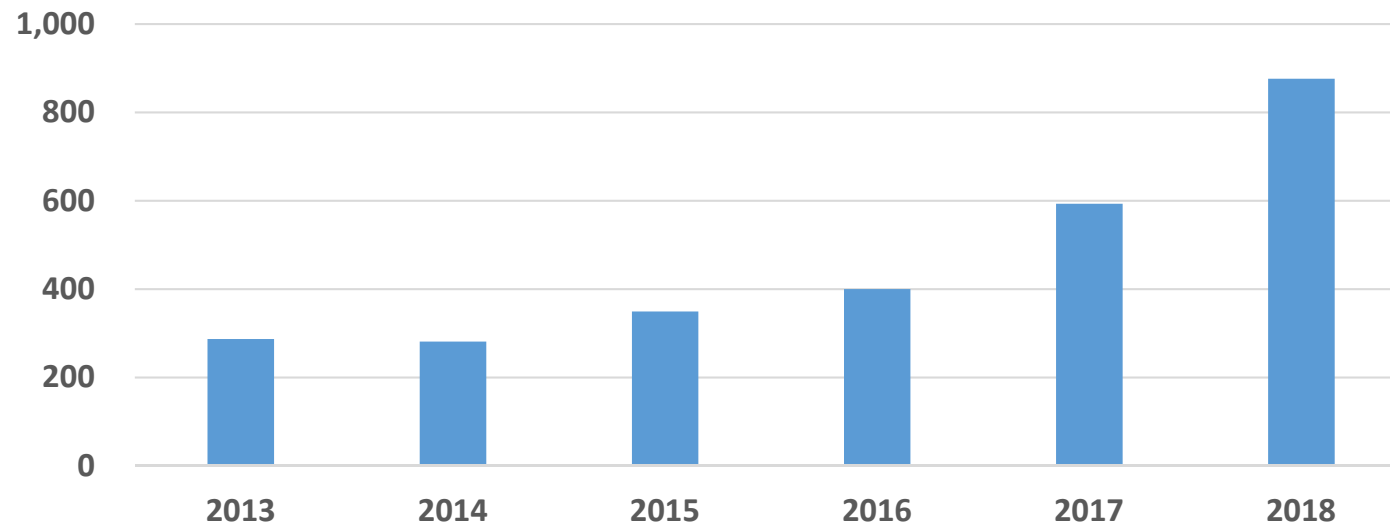
NEXCO大規模更新事業での床版取替工事等を対象に、すでに多くの採用のあるSLJスラブ工法に加え、既設PC桁のグラウト注入技術PC-Rev工法等、保全技術も多く手がけています。また、架替対応として、SCBR工法の適用拡大を可能としました。

▶ 橋脚・基礎の補修補強対応

当グループの独自技術であるSTEP工法、PRP工法の採用拡大を図り、掘削機械や工法の改良・開発等を行っています。

補修補強 PC建協会員受注額の推移

単位：億円



*プレストレスト・コンクリート建設業協会「受注額の推移」より引用

主な受注案件

工事名	工事概要
北陸 富山立山間床版取替工事	中日本高速道路(株)発注 大規模更新工事で富山県内の北陸自動車道の橋りょう床版取替工事を施工
億首川橋他1橋床版取替	西日本高速道路(株)発注 大規模更新工事で沖縄県内の沖縄自動車道の橋りょう床版取替工事を施工
本名川橋他1橋床版取替	西日本高速道路(株)発注 大規模更新工事で鹿児島県内の九州自動車道の橋りょう床版取替工事を施工
滄浪橋他1橋補修	中日本高速道路(株)発注 大規模更新工事で神奈川県内の西湘バイパスの2橋を脱塩対策、鋼橋補修、外ケーブル補強などで施工
平成30年度あけみ橋耐震補強工事	東京都発注、江東区内において橋りょう橋脚の耐震補強工事。当社特化工法のSTEP工法にて施工
及川橋耐震補強工事	宮城県発注、宮城県石巻市内において橋りょう橋脚の鋼板巻き立て工事。当社特化工法のピアリフレ工法にて施工

既存事業の収益力強化

建設事業の4つのセグメントを強化

■ PC（プレキャストコンクリート）建築

▶ 提案力、設計力の強化

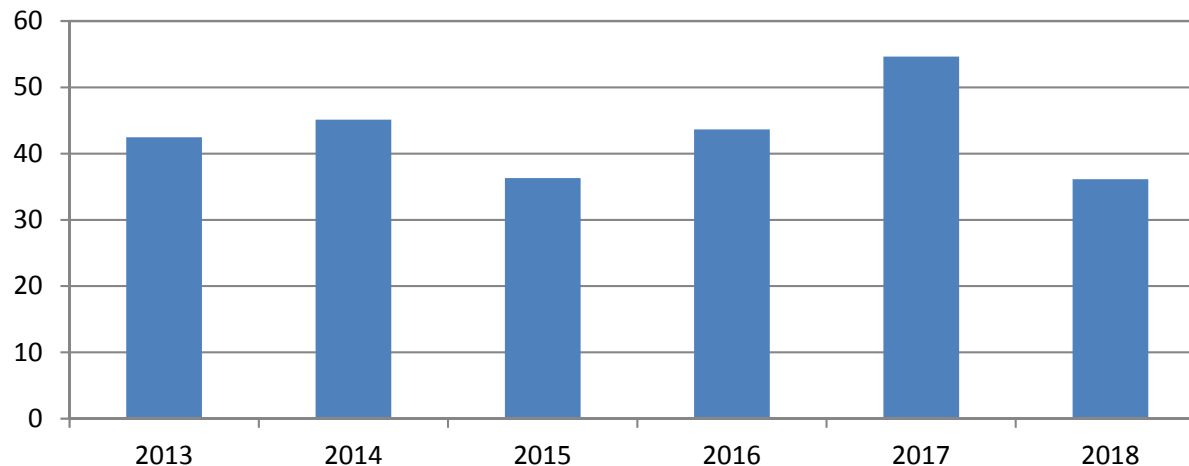
・プレキャスト工法の競争力向上

新たな定着工法の開発やBIMによる設計提案力の強化により、採用拡大を図っています。

加えて、当社工場や社外提携工場との連携強化により、プレキャスト工法のコスト競争力、製品提供力の強化を図っています。

PC建築 当社受注額の推移

単位：億円



主な受注案件

工事名	工事概要
岩国市立東小中学校 PCa工事	岩国市の小中一貫校整備計画における新築学校建設工事のPCa部材の製作・運搬・据付工事一式
嘉手納駐機場 PCa工事	沖縄県嘉手納市の米軍駐機場改修工事におけるPC床版の製作・運搬・据付工事一式
栃木総合スポーツゾーン東エリア PCa工事	宇都宮市西川田地内の既設公園等再整備事業におけるPCa部材の製作・運搬・据付・緊張工事一式
平和の森公園整備および体育館整備 緊張工事	東京都中野区の既存公園等の防災等機能向上を図る再整備事業における現場打ち緊張工事一式
浜山公園野球場 PCa工事	島根県出雲市の浜山公園野球場改築工事におけるPCa部材の製作・運搬・据付・緊張工事一式

大型プロジェクト工事の積極受注

建設事業

主な受注工事

今後の見通し

北陸新幹線延伸

- ・南条橋りょうPCけた
- ・中筋東橋りょうPCけた

PC上部工7件（100億円）程度の発注が残っています。
制作工場の状況次第での対応となります。

高速道路大規模更新

- ・沖縄自動車道 億首川橋他 1 橋床版取替え工事
- ・西湘バイパス 滄浪橋他 1 橋補修工事
- ・北陸自動車道 富山立山間床版取替え工事
- ・中国自動車道 千種川橋床版取替え工事

本年度、床版取替えだけで1,200億円発注される予定です。
その後も1兆4000億円程度が残っています。

調整池・ポンプ場更新

- ・南部浄化センターS P棟ケーソン

首都圏に大型の治水施設が計画
地方都市にも治水施設の建設計画が増えつつあります。

東京五輪関連

- ・各種関連施設の段床版製作、PC緊張工事等（下請・PC建築）

鋼構造物事業の再編

エンジニアリング化（製造業から建設業へのシフト）

■ 新設鋼製橋梁建設事業

▶ 工場を集約しコストを圧縮

日立造船株式会社との業務提携による生産体制構築の確立

- ・ 2018年3月期までに4物件、1,800 t
- ・ 2019年3月期 5物件、2,000 t を製作
- ・ 2020年3月期 すでに2物件、600 t の製作が決定

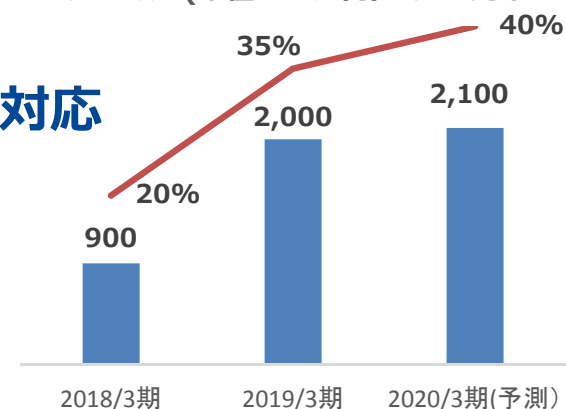
■ インフラ保全事業

▶ 補修・補強部門を強化

高速道路床版取替、疲労損傷補修補強、耐震補強等の対応

- ・ 億首川橋(上り線) 他1橋床版取替
 - ・ 福地川橋(下り線) 他1橋床版取替
 - ・ 小一条高架橋支承取替
- ：3件ともにオリエンタル白石とのJVによる受注

売上額（単位：百万円）・売上比率



新規・新領域事業への進出

新たな事業分野を開拓

■ 建設事業

▶ 港湾関連事業への進出

- ・ 当グループが保有する技術の公的な認定による営業強化
 棧橋用SLJスラブ：優れた施工性が沿岸技術研究センターの確認審査で評価
 根入れ式ケーソン：沿岸技術研究センターからマニュアル発刊
- ・ クルーズ船棧橋や国際バルク棧橋への高耐久棧橋の営業

▶ 海外事業への進出

当グループが得意とする都市土木技術や軌道技術により、進出の可能性について模索中

▶ アライアンス等の検討

M & A, 異業種や地域会社との提携等については随時検討を実施

新規・新領域事業への進出

新たな事業分野を開拓

I 鋼構造物事業

▶ 鋼製橋梁周辺事業への進出

I H式塗膜剥離装置による保全事業の展開

当グループ工事にて、塗膜剥離事業を展開

(天竜川橋、市川橋、東京モノレール)

今後もグループ全体で請け負った工事に加え、さらに事業規模の拡大を図る

高耐食鋼検査路事業の展開 (商品名 JB-HABIS)

NETIS登録番号 : KK-170055-A

当グループ受注の新設鋼橋に積極的に採用するとともに同業者への販路拡大を展開中

・国道45号 普代川大橋、国道197号 郷高架橋

恒久足場事業の展開 (商品名 JB-HIDURACS)

都市高速での需要があり、採用に向けて開発を進めている段階



写真1



写真2

研究開発の強化と戦略的投資

新たな技術・素材・工法を開発

▶ 独自技術の開発

大規模更新事業や維持修繕事業における競争力強化のため、独自の補修・補強工法および材料を開発中です。

▶ 異業種企業との連携

- ・ AI、IoT、新材料、ケーソン設備の開発において、異業種企業との連携を推進しています。
- ・ 大学との共同研究の推進やSIP（戦略的イノベーション創造プログラム）などにも参画し、事業範囲の拡大を図っています。
- ・ 炭素繊維複合材ケーブル（CFCC）を使用したプレキャストPC床版『CFCCスラブ』を開発しました。

サステナビリティ社会に向けた取組み

環境に配慮した技術開発

・高炉スラグ細骨材の利用

製鉄所からの副産物として生成される高炉スラグをコンクリート用の細骨材として利用し、天然砂の使用量の削減を図るとともに、長期強度の増進、塩分浸透抵抗性の向上、凍結融解抵抗性の向上が図れることに着目し、各種構造物への適用に取り組んでいます。

・フライアッシュの利用

石炭火力発電所からの副産物として生成されるフライアッシュ(石炭灰)をセメントの一部と置換して利用し、セメント製造におけるCO₂排出量の削減を図るとともに、長期強度の増進、塩分浸透抵抗性の向上、アルカリシリカ反応抵抗性の向上が図れることに着目し、各種構造物への適用に取り組んでいます。



PC床版に適用するための輪荷重疲労載荷試験



PC桁に適用するための実物大静載荷試験

研究開発の強化と戦略的投資

戦略的投資

▶ 安定と成長の布石

生産性向上に資する設備投資・研究開発投資

- ・ 大深度ケーソン工事へ対応する新型掘削機やロボット等を製作
- ・ ケーソン等大型プロジェクトへの機械の増設

コンクリート工場の設備更新

- ・ 大規模更新関係の床版製作増加への対応として、新たな製作ラインを増設

ニューマチックケーソン訓練センターの建設

- ・ 職員や潜函工が実機訓練できる設備を新設

播磨工場売却資金の活用方針

- ・ 今後活用方法を検討

経営課題への積極的な取り組み

人材マネジメント・働き方改革

事業と組織を成長させ、かつ安定させていくための『わが社の成長と安定を企図する諸検討プロジェクト』が2年目に入り、3つの課題（「働き方改革」「生産性の向上」「人材の育成」）についての検討結果を踏まえた各種施策を実行に移しています。

業務の効率化

グループ各社の管理業務の効率化を重視した新基幹システムへの移行を行うため、『グループ基幹システム構築プロジェクトチーム』を組成して、導入に向けて作業を進めています。

経営課題への積極的な取り組み

協力会社との協働

●作業員宿舎の提供

2018年11月に東京都江戸川区に建設作業員用宿舎「ドーミトリー新小岩」が完成しました。

【概要】

50名収容

食堂、駐車場、駐輪場

- ✓ 今後増える首都圏の治水関係大型事業への施工能力確保
- ✓ 協力会社“担い手確保”への支援



ドーミトリー新小岩

経営課題への積極的な取り組み

協力会社との協働

- 休日確保に対する支援
完全週休2日に向けて、本年は4週6閉所の定着化
- 資格取得に対する各種支援
- 当社独自の職長教育・安全教育の実施
当グループ独自の職長教育など、教育・研修を支援
- 協力会を通じて、意見交換
- 優良職長制度

経営課題への積極的な取り組み

役員に対する株式報酬制度の導入

昨今、上場会社の経営陣に対しては自社株を利用した株式報酬制度等の導入が求められており、東京証券取引所の「コーポレートガバナンス・コード」においても、中長期的な業績と連動する報酬の割合や、現金報酬と自社株報酬との割合を適切に設定すべきと定められています。

現在、当社取締役の報酬は「基本報酬」のみでしたが、今般、新たに株式報酬制度を導入することと致します。

本制度は、取締役の報酬と当社の株式価値との連動性をより明確にし、取締役が株価の変動による利益・リスクを株主の皆様と共有することで、中長期的な業績の向上と企業価値の増大に貢献する意識を高めることを目的としております。

現場見学会を開催

機関投資家・アナリストの皆様を対象として、2019年2月21日に沖縄自動車道（特定更新等）億首川橋（上り線）他1橋床版取替工事の現場見学会を開催しました。

今後もこうした取り組みを通じて、当社事業への理解を深めていただくべく、機関投資家・アナリストの皆様との直接対話できるようなIR活動を進めていきたいと考えております。





将来に関する記述等についてのご注意

本資料は、発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る仮定を前提としており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。
今後、実際の業績は、金融市場の動向、経済の状況、競合の状況や地価の変動の他、様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。